

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス 寿ふくろうの家		公表日		2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	0	活動内容により使用する部屋を変える等、子どもが活動しやすいよう配慮している。	パーティション等を活用してより良い環境作りを強化したい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	0	子どもの特性や活動内容によって人員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	0	子どもの特性によって活動部屋を分けるなど細やかな配慮を行っている。	引き続き視覚支援による支援を進め環境整備に努めたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	0	毎日の掃除や各部屋に消毒液を置いて活動が快適に行えるように意識している。	換気や空気清浄機を活用し感染症の対策にも力を入れていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	0	必用に応じて個別な空間をパーティション等で作って活動の流れの中に一緒にいれるよう配慮している。	用具のレイアウトを見直し、子どもが安全に過ごせるよう空間確保する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0	定期的な会議やミーティングを行い情報共有をしている。	パート従業員等支援に関わる者にはフィードバックを行っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	保護者からの要望には事業所の職員間で共有し改善に向けた話し合いの場を設けている。	アンケートやSNSを活用して意見をいただくよう検討する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	話しやすい環境を作り定期的に面談をしている。	職員の中で出た意見は内容を精査し場合によっては管理者を含めて会議を開き対策を考える。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1	監査指導部等で指摘された点は共有し改善につなげている。	日々の中に改善点が見えた時も職員間で共有し改善に向けて話し合う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	外部講師による研修や社内研修を開きできるだけ多くの職員が参加できるよう計画している。	ZOOMも活用し幅広く研修の機会が持てるよう検討する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	0	療育方針に沿った計画を作成している。	より柔軟に個々に対応できるようにしていきたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3	0	定期的な面談を開き保護者のニーズを取り入れて計画をたてている。	計画を立てたら速やかに保護者に確認いただけるように努める。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	個別支援会議を実施し、職員の意見を反映した計画を作成している。	引き続き子どもの特性等細やかな点まで着目して計画を立てる。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	支援前の打ち合わせや振り返りの際に情報共有を徹底している。	日々の子どもの様子も細かく保護者に伝えられる様情報共有していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0	日々の子どもの様子や変化を観察しながらアセスメントシートに記入し、すぐに計画案に反映できるように努めている。	気になる行動をタイムリーに共有できる仕組みを継続する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	長期的な支援を考えて支援内容を設定している。	家族支援や移行支援の充実を目指す。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	0	月1回のプログラム会議で、職員間で相談しながら立案している。	活動内容が重複しないよう過去の活動の記録も残しながら立案する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	0	室内や屋外の活動、季節の行事も意識しながら活動内容を決めている。	新規の活動内容やクッキングの内容を開拓したい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	0	自由な活動と集団で行う活動、めりはりをつけて計画、支援を行っている。	支援内容の充実のため支援技術向上を図りたい。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	支援前のミーティングや振り返りを欠かさず記録を残し全員で共有できるようにする。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0	振り返りで出た意見や子どもの様子等は記録に残し支援に関わる者に共有する。	記録を見返す等の情報共有を行い、連携の強化を図る。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	0	会議・振り返り等記録を残し、課題への支援方法の見直しや改善に向けて工夫している。	クラウド上での記録でタイムリーに見られるようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	定期的な面談で支援方法の見直しや子どもの成長を把握する。	小学生の時期は様子が変わりやすいので、定期的な見直しを徹底する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	子どもの担当が計画を立案し他事業所や学校・保育園等関係機関と共有している。	支援者会議を開き関係機関同士情報共有を図る。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0	学校の先生や保育所の先生に活動を見てもらったり、送迎時に連絡しあいより細やかな支援ができるよう連携している。	電話を活用して密接に連携できるよう努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	保護者の要望によって、ライフステージの切れ目では必要な情報共有をしている。	進学した後のケアも強化したい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	0	法人内の児童発達支援センターと連携を図っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	0	積極的な交流を持つ機会はありませんが、地域の公園や商店に行くなどしている。	イベントや行事等を充実させたい。もちつき大会等も地域開放する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	面談や送迎時、またはLINEなどを通じて具体的な子どもの様子を連絡して家庭との連携を深めている。	保護者に直接お会いできない時にはLINE等で連絡し子どもの様子を把握できる体制を作る。
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	LINE等の連絡手段を活用し気軽に相談できる環境を整えている。 面談の中で見えてきた課題をテーマにした研修を行う。	関心の高い、中学校生活に向けた研修を企画したい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	初回面談時や変更事項があればその都度説明会等開き丁寧に説明している。	面談の時間が取りづらい保護者にむけてのフィードバックの機会を考えたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	適時連絡をして子どもの様子や保護者の方針等話し合う機会を設けている。	家庭やその他教育機関、支援機関と連携を図れるよう検討している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3	0	新しい計画を発行する度に保護者の同意をいただいている。	適切な時期に説明ができるようにする。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	0	定期的な面談、送迎時の連絡等保護者に会う機会を確保している。	なかなか会えない保護者への連携を図る機会をどう持つか検討している。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0	保護者参加の座談会や保護者同伴の活動など関わりを持てる機会を設けている。	新たな座談会や相談の場が持てる研修会等を企画している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0	要望、相談等があった場合は速やかに対応を話し合い職員間で情報共有している。	積極的に保護者の相談を受けられるように案内する。意見があれば対策を講じ新たなマニュアルを更新していく。

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0	通信を発行し子どもの姿が分かるように発信している。	具体的なエピソードも盛り込み楽しみにしていただけるようにしたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	個人情報が記載された書類等は鍵のかかる書庫に保管し取扱には細心の注意を払っている。	書類の保管、取扱を十分に注意していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0	視覚支援で伝える等特性に応じて柔軟に対応していく。	口頭での伝達だけではなく書面で記す等誰もが確認できる体制を整えたい。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	0		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	あらゆる事態を想定した定期的な避難訓練を実施しその様子を保護者に伝えて、有事の際の意識を高めている。	避難場所の周知を図りよりリアルなシュミレーションに努めたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	0	研修でBCPの説明、訓練をおこなっている。	災害時に必要な物の管理場所や在庫状況など把握が継続できるようにしたい。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	0	全職員で把握し、発生時の連絡経路や手順を可視化している。	一人の職員で対応せず複数人で進めるよう徹底していきたい。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	1	アレルギー調査書を提出してもらい職員間で情報共有している。	お菓子の提供やクッキング時には特に注意をして進めたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	あらゆる事態を想定した避難訓練を定期的実施している。	避難訓練の内容を見直しながら新たなシチュエーションを考える。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	事案が発生した時は速やかに情報共有し改善に努めている。	日々の振り返りの中に新たなヒヤリハットが潜んでいないか内容を精査する。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	虐待する側される側に分かれて実際体験できるシュミレーション方式の研修を行うことでよりリアルに感じ防止策を考えている。	参加できなかった職員への研修や第二回目等検討したい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0		